

富士市の自転車を活用したまちづくり

～自転車活用推進計画の策定と今後の自転車施策について～

富士市 建設部 建設総務課

1. はじめに

富士市は静岡県の東部に位置し、南に駿河湾、北に霊峰富士を擁し、日本三大急流のひとつである富士川が流れる、自然豊かで温暖な気候に恵まれたまちです。

面積は約 245 平方キロメートルで、富士山と海に挟まれた地形であることから、市域の南北の高低差が大きいという特徴があります。

当市は、東海道を代表とする街道の整備とともに交通の要衝として、また、富士山の玄関口として栄えてきました。現在は、東海道本線、東海道新幹線、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号などの広域東西軸が通っています。

東海道新幹線新富士駅には、東京駅から約 70 分、名古屋駅から約 90 分で到着します。

現在、富士山と海を併せ持つ唯一のまちとしてオンリーワンの魅力を表現したブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」を活用し、まちの魅力発信に取り組んでいます。

また、海拔0メートルから富士山頂を目指す「富士山登山ルート 3776」も当市の魅力のひとつです。

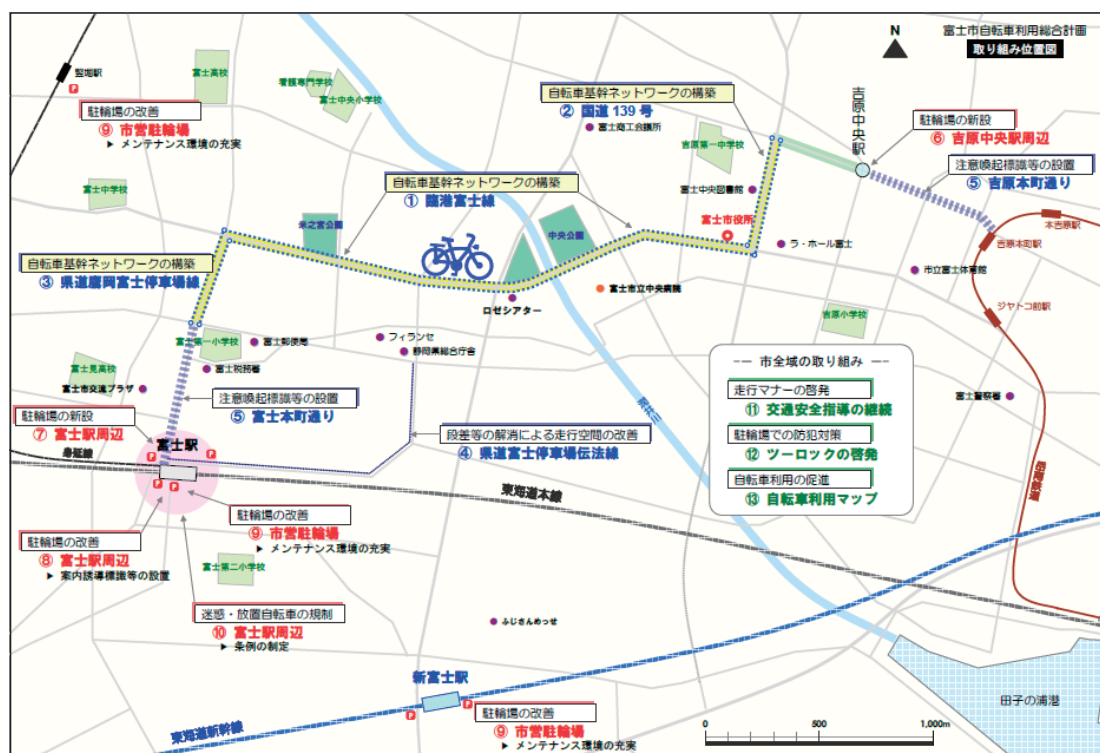


2. これまでの取組

当市における移動手段は自動車に強く依存しています。しかしながら、人口減少・超高齢化社会の到来、地球環境問題の深刻化などから、これまでの拡散型のまちづくりから、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりへの転換を図ることが時流となりました。

そこで、自動車交通への過度な依存を減らす交通手段として自転車に着目し、平成 22 年 3 月に策定した「富士市総合都市交通戦略」の中で、自転車を効率の良い都市交通の「ひとつのモード」として明確に位置づけました。

総合都市交通戦略をベースとして、自転車の適正な利用を促進し、安全、安心で快適な移動を実現するため、平成 23 年 3 月に「富士市自転車利用総合計画」を策定しました。この計画に沿って、鉄道駅や主要施設へのアクセスを可能とする自転車基幹ネットワーク路線を定めて自転車走行空間を整備し、自転車の円滑な通行、歩行者の安全性向上を図りました。併せて、駐輪環境の適正化、自転車走行マナーの向上や自転車利用促進などの施策を進めてきました。



自転車利用総合計画 計画図（出典：富士市自転車利用総合計画）



臨港富士線（富士市役所付近）



鷹岡富士停車場線（富士駅付近）

3. 自転車を取りまく環境

(1) プロサイクリングチームの活動拠点

地域密着型のプロサイクリングチーム「レバンテフジ静岡」が、当市に拠点事務所を設置し、静岡県東部地域を中心に活動しています。

レバンテフジ静岡は、当市と「サイクルスポーツを通じた地域づくり」の連携協定（令和2年8月）を締結し、自転車を活用した地域活性化に取り組んでいます。



市民参加型のライドイベント



サイクルマナーアップ街頭啓発活動

地域イベントへの参加イメージ（提供：レバンテフジ静岡）

自転車のプロロードレースでは、世界的にはツール・ド・フランスが有名です。日本では世界に比べると競技者が少なく、マイナースポーツというイメージもありますが、近年では、国内に世界大会が誘致されるようになり、数万人の観客が集まるレースも開催されるようになりました。

レバンテフジ静岡は、日本各地で開催されるロードレースに参加しています。

加えて、地域密着型プロサイクリングチームとして様々な地域活動を実施しています。警察と連携した交通安全活動や自転車の盗難防止をはじめとした防犯活動、プロとしての職業を紹介する職業講話など、警察や行政が行う地域活動にプロサイクリングチームが協働することで、啓発活動などにおいて非常に高い効果をもたらしています。

また、当市では新しい生活様式に対応したサイクルツーリズムの推進に向けて、E-Bikeを活用した市内自転車周遊観光の定着を目指しています。

このサイクルツーリズムの推進においても、プロ監修のコース設定や、プロ選手とのライドイベントの実施など、プロサイクリングチームと連携し、「富士山」「駿河湾」「富士川」「レバンテフジ静岡」を“富士市オンリーワン”の魅力として活用していきたいと考えています。

(2) サイクルツーリズム振興

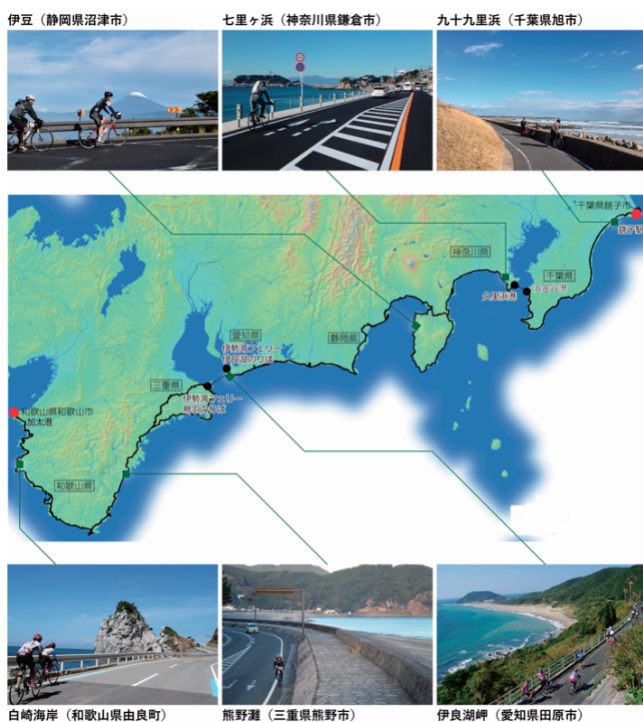
当市は、新幹線駅や高速道路のインターチェンジがあり、東西都市圏からのアクセスが良好であることから、サイクルツーリズムを呼び込むのに適した地域です。

また、温暖で降雪がほとんどないため、年間を通して自転車を楽しむことができます。

令和2年度には、市内を通る太平洋岸自転車道の整備が完了しました。

太平洋岸自転車道は、千葉県から和歌山県までを結ぶ延長約1,400キロメートルの国内最長サイクルルートです。全線を統一コンセプトのもとで整備が進められ、当市の区間も統一コンセプトに沿って整備をしています。

なお、太平洋岸自転車道は、令和2年10月に全線整備が完了し、本年1月にナショナルサイクルルートの候補ルートに選定されました。



太平洋岸自転車道ルート図



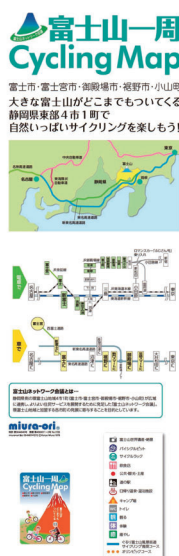
統一ロゴ

(ルート図、統一ロゴ出典：太平洋岸自転車道 HP)



富士駅南口田子浦線 (道の駅富士付近)

美しい海を見ながら走る太平洋岸自転車道だけでなく、当市には、雄大な富士山を周遊する富士山一周サイクリングコースもあります。インバウンド集客が期待できるサイクリングコースをどちらも楽しむことができるのが当市の強みです。この二つのサイクリングコースを繋ぐ接続ルートの設定が今後の課題であり、現在は、国、静岡県、近隣市町等と接続ルートの設定に向けて協議を進めています。



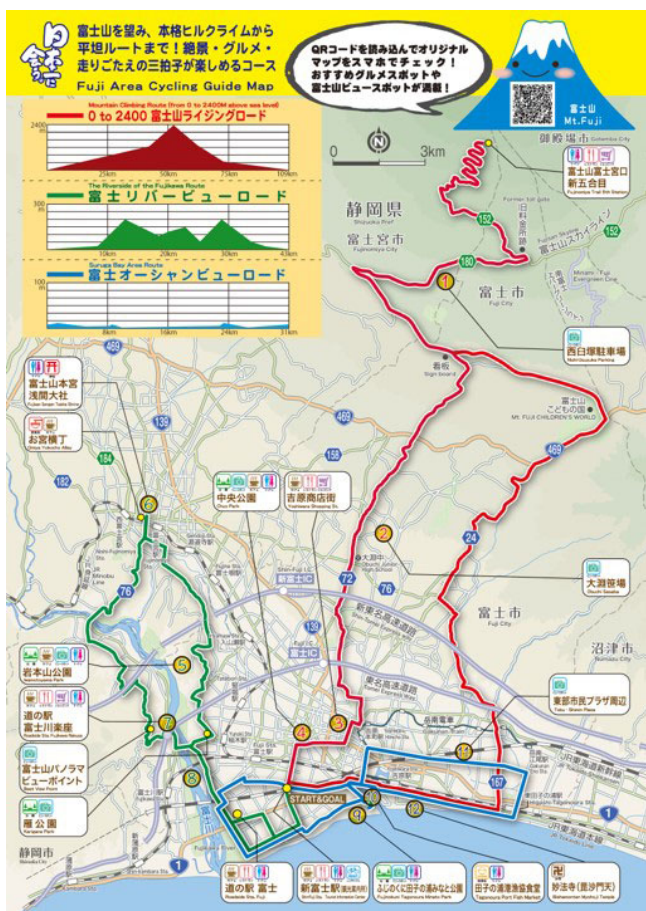
4市1町富士山一周サイクリングマップ
(御殿場市、富士市、富士宮市、裾野市、小山町)

(出典：富士山ネットワーク会議)

当市の地形は、南の海側は平坦で、北の富士山麓に向かって上っていくため、南北方向は起伏があります。一方で、東西方向は比較的高低差が少なくなっています。このように、市域には多様な地形や自然環境があり、初心者から上級者まで楽しむことができるサイクリングコースを創出することができるのが当市の強みです。

また、田子の浦港から眺める富士山や農林水産省に地理的表示（GI）登録された田子の浦しらす、工場夜景や岳南鉄道、道の駅ふじかわ楽座などの観光施設、おいしい緑茶やほうじ茶などの観光資源にも恵まれています。

一般社団法人富士山観光交流ビューローでは、レバンテフジ静岡の協力を得て、「富士エリアサイクリングガイド」として富士市周辺を周遊するサイクリングコースを設定しています。難易度別に三つのコースがあるので挑戦しやすく、新富士駅観光案内所にはレンタサイクルもありますので、富士市にお越しの際はぜひご利用ください。



富士エリアサイクリングガイド
（出典：（一社）富士山観光交流ビューロー）



道の駅ふじかわ楽座



大淵笹葉の茶畑

4. 今後の展開

国は、平成 29 年 5 月に「自転車活用推進法」（平成 28 年法律第 113 号）を施行し、本法律第 9 条に基づいて「自転車活用推進計画」を平成 30 年 6 月に閣議決定しました。

静岡県においては「静岡県自転車活用推進計画」が平成 31 年 3 月に策定され、サイクルスポーツの聖地に向けた自転車競技振興、サイクルツーリズム推進、愛好者の裾野拡大、安全利用の促進、走行空間整備等の多様な施策を推進しています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響から、密を回避できる移動手段として自転車の利用が進んでいる状況にもあります。

このような状況を踏まえ、当市は、SDGs の未来都市（※注）として SDGs の理念に沿った持続可能なまちづくりを推進し、自転車を活用することにより、安定した地域振興や市民生活の質の向上を図ることを目指して、市民、事業者及び行政が連携しながら、市の実情に応じた自転車の活用の推進に関する施策を総合的に進めるため、「富士市自転車活用推進計画」の策定に取り組んでいます。

令和 3 年 10 月の策定を目指して、スポーツ振興課が事務局となって作業を進めており、当課は懇話会のメンバーとして参加しています。

懇話会は、行政関係者や学識経験者に加え、前述の富士山観光交流ビューローのような観光関係者、レバンテフジ静岡のような自転車関係者にも参加いただいております。本計画策定後も連携協力場として活用し、本計画の取組が円滑に展開できるよう推進体制を構築していきます。

（※注）

当市は、令和 2 年 7 月に「SDGs 未来都市」に選定されました。また、令和 2 年 9 月には「富士市 SDGs 未来都市計画」を策定し、SDGs 達成に向けた、経済、社会、環境の三側面が調和した施策を進めています。



5. おわりに

「富士市自転車活用推進計画」策定後の検討事項として、自転車走行空間ネットワーク計画があります。今後は、日常生活における自転車利用を考慮したルート検討に加え、観光利用における交通結節点や観光施設等を繋ぐ、サイクリングコースと連携した自転車走行空間ネットワークの検討が必要となります。

過去の取組みを活かしながら、より安全に利用できる自転車走行空間のネットワーク整備や、より快適に利用するための放置自転車対策などを進めていく予定です。

また、地域密着型プロサイクリングチームの拠点事務所がある利点を生かしてサイクルスポーツ振興を図るため、市内でのプロサイクルロードレースの開催を検討しています。国内トップカテゴリーのサイクルロードレースを開催し、市民に身近にレースを感じてもらうことで、競技振興や市民生活における自転車活用が更に進んでいくものと期待しています。

富士山を見ながらのサイクルツーリズムと、プロサイクルロードレースを当市の自転車文化の象徴として根付かせ、「自転車によるまちづくり」を進めていくよう努めていきます。